

木もれ陽

文責 平川 千秋

「新しい生活様式」を考える



4月7日に「緊急事態宣言」が発令されてからひと半月あまりが経過しました。多くの地域で既にこの宣言が解除されましたが、千葉県を含む首都圏1都3県と北海道については今日判断すると報道されています。感染者数は減少傾向にあるものの、今後も予防ワクチンが開発され活用できるようになり、感染者がなくなるまで、この新型コロナウイルスに対しては“正しく恐れ、正しく予防”できるように努めていかななくてはなりません。

学校では5月12日以降、学級ごとに学習支援日を設け、配付した課題への学習支援と回収を行ってきました。教室を3カ所に分け、座席を離して密集・密閉を防ぐ、対面にならないように同じ方向を向いて学習する、時間差登下校で接触を防ぐ、終了後は座席と机、トイレの消毒をする等、さまざまな対策をとって実施しました。ほとんどの皆さんがこの学習支援日に参加して、黙々と課題に取り組み、わからないところは質問するなど積極的な姿勢を見せてくれたので、一ヶ月以上顔を見られなかった職員は、大変安心し、同時に感心し「よし、学校が始まったら今以上に頑張るぞ。」という思いを強くしました。

さて、今、皆さんに考えてもらいたいことがあります。それは、この新型コロナウイルスを“正しく恐れ、正しく予防”する生活とはいったいどんな生活なのかということです。すなわち、これまでとは違った「新しい生活様式」についてです。

学校が再開しても、これまで通りの学校生活に戻ることは残念ながらできません。授業もこれまで玉造中学校・各小学校で行ってきたものとは違った形で進めなくてはならないと思います。たとえば、小グループでの話し合い活動では頭を寄せ合って考えてきたことでしょう。給食の時間には向かい合いおしゃべりしながら楽しく会食してきたことでしょう。でも、今、新型コロナウイルス感染防止のためにはソーシャルディスタンスといわれるように、周りの人と適切な距離をとることが社会全体で求められています。部活動や学校行事、登下校についても同様です。友達と手を取り合って大きな声で笑ったり、はしゃいだり、肩を組んだり……、こうしたことはしばらく控えていく必要があります。これを不自由とするのではなく、自分を守り、相手の健康を守るためだと理解して、皆さんには、どうすれば心地よく生活していけるか「新しい生活様式」について考え、実行につなげてほしいと思います。



休校が2ヶ月以上続いていることで、多くの皆さんが不安や心配を抱えていると思います。学校が再開したらまず担任の先生との教育相談を予定しています。心の内を相談してみてください。6月1日以降の予定については、今後マチコミとHPでお知らせしますので、ご確認ください。

街路樹の葉の色もだいぶ濃くなり、5月も最後の1週になりました。6月には皆さんと一緒に学校で過ごせることを心から願っています。